



ギャザリア ビオガーデン「フジクラ木場 千年の森」

株式会社グラック 八色宏昌・北川明介
株式会社富士植木 大恵朋彦・角幡大亮

□ 整備概要

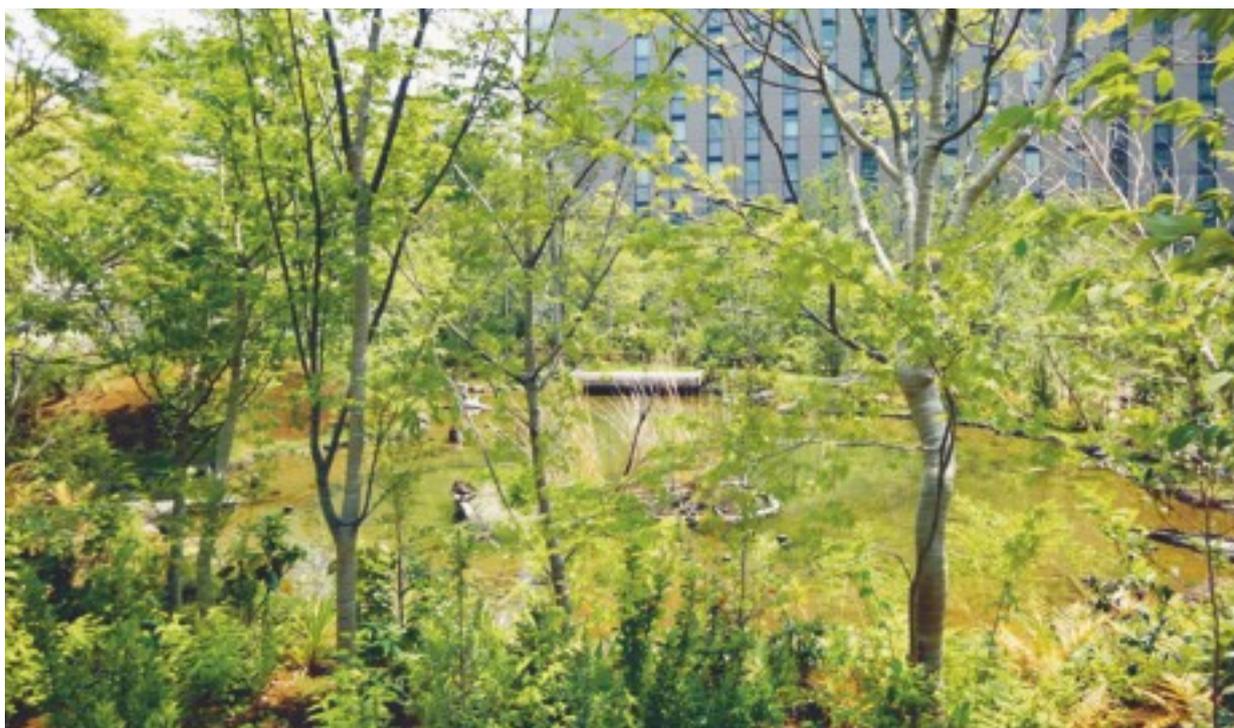
環境や生物多様性の時代といわれている今日、地域と密接な関わりをもつ企業には、企業活動を持続的に継続していくために、その土地や人々と共に環境に配慮した魅力ある地域づくりを行うことが求められている。一般に公開されている民間緑地であるギャザリア ビオガーデン「フジクラ木場 千年の森」の整備においても、ランドスケープを通じて、生物多様性がもたらす恵みを地域住民に提供し、豊かな地域環境の創造に寄与することが求められた。

敷地は、都市化が進行している荒川流域圏内の東京

都江東区木場の株式会社フジクラの旧深川工場跡地の再開発事業により整備された深川ギャザリア内に位置し、2010年3月に工場の建築物を解体した後、自然環境の創出のよりどころを求めることが困難な更地において整備を進め、2010年11月に竣工した。

□ 設計内容

設計では、生物多様性がもたらす恵みを地域住民に提供するために、地域の歴史をふまえ、地区の環境に適合する自然環境を創造し、自然の動的な生命力を感じることができるように考えた。自然環境を創出するにあたっては、地域の生態系と地歴の様相を紐解き、



保護区の池（2011年5月）

作品概要

作品名：ギャザリア ビオガーデン「フジクラ木場 千年の森」
 所在地：東京都江東区木場1-6-8ほか
 発注：フジクラ開発株式会社
 設計：株式会社グラク（担当：八色宏昌・北川明介）
 設計協力：株式会社PPM（プロジェクトマネジメント（担当：田邊雄策））、株式会社地域環境計画（魚類採取協力（担当：井上剛））、亀山章（東京農工大学名誉教授（助言））
 監理：株式会社グラク（担当：八色宏昌・北川明介）
 施工：株式会社富士植木（担当：大恵朋彦・西泉重宏・角幡大亮・斉藤学・松村一慶・前野悠樹・川崎年洋）
 設計期間：2009年4月～2009年10月
 施工期間：2010年4月～2010年10月
 規模：約2,200㎡
 主要施設：池、流れ、園路、デッキ、管理施設、浮島、カワセミ繁殖用土手等

作品評

この作品は、民有地の自然環境空間の重要性を認識し、事業主、設計者、施工者が三位一体となって成し遂げた先進的な秀作である。設計者の思いとこだわり、施工者の設計趣旨の咀嚼と技術提案、事業主の理解が相まって、素晴らしい作品が実現し優秀賞に選ばれた。

われわれが日々行う公共事業のほとんどの場合、設計と施工が分離されて発注される。このような仕組みでは設計意図の伝達において限界があり、いろいろな角度から議論検討がなされている昨今である。標準設計と会計数値根拠に呪縛された公共事業では到底望めないデザインエッセンスの伝達がなされ、民間事業ならではの長所を顕著に示したプロジェクトである。基本的にランドスケープの所作は公共財の取扱いであるものの、快適性、景観性、環境性が主に問われる。この点について本作品は示唆的な作品であり、今後の整備手法について教示するプロジェクトと言える。

その一方で、表現型において荒川中上流域の縮景に見えるが、箱庭的な印象が否めない。木場という下町の地場性、たとえば近接する清澄庭園の存在等、その辺のデザインテイストと関連性を持たせたならば、さらに高い評価を得たものと思われる。

自然のありように極力沿うように行った。荒川流域圏を生態系および物質循環の空間単位としてとらえ、水域の水草や魚類の生物は荒川流域圏内から調達した。また、石材や木材、土壌は、過去の木場における河川・海を通じた物流の歴史を踏まえて、石材は真鶴産、木材や土壌は関東または荒川流域圏内における調達を基本とした。これにより、土地の記憶の継承、調達先の農山村地域の一次産業などに寄与できると考えた。

□竣工後の状況

竣工後は、コサギ、アオサギなどの中型鳥類の飛来・採餌やヒヨドリの水浴び、カルガモの抱卵、ナミアゲハやギンヤンマの産卵、モツゴなどの稚魚の遊泳が頻繁にみられ、日々変化していく動的な自然を地域住民、オフィスワーカーなどに楽しんでいただいている。



エントランス（2011年5月）



鳥類が飛来する流れ（2011年5月）



冬景色（2012年1月）



カルガモ（2011年5月）



コサギ（2011年10月, 11月）



平面図